



最愛の友人の皆さん、

この困難の時、大きな希望をもって皆様に心からごあいさつ申し上げます。戦争という苦しみは私たちを圧倒し不安にさせますが、苦しむ人々と共に、人々のために、最も大切な場にとどまるよう、私たちを促します。

私たちはキリスト者の扶け聖マリアの娘として、最近の総会で、**生きる道としての宣教的シノダリティ (sino-dalità missionaria)** を歩むことを選び取りました。現代の世界を生きるため、召命やカリスマの多様性を合わせることによって、新たな選択肢であるこの道をたどりたいと願っています。サレジオの霊性は、私たちが前にする現実を包容させることのできる、霊的、人間的価値を担いもたらすものだと私たちは信じています。

サレジオの霊性を生きるということは、予防教育法を体現すること、「共に」、対話のうちに、優しく柔らかな非暴力の答えの力に信頼し、新たな世代を教育することです。多くの家庭との一致の交わりのうちに、私たちは日々、「家庭的精神」を養う道を生き、平和のために働き続けます。

Chiaira Caruso

■ サレジアン・シスターズ総長
シスター・キアラ・カツオーラ, FMA

サレジオ会宣教師の召命の識別



宣教精神は牧者の愛の心であり、Da mihi animas. Caetera Tolleに集約されます。すべてのサレジオ会員は、「ドン・ボスコのカリスマの本質的な特徴」(ヴィガノ神父)として、この精神を生きるように呼ばれています。

一方、サレジオ会**宣教師の召命**は主の賜物であり、一部の人の召し出しです。サレジオ会宣教師であることは、恵まれたエリート会員グループに属するということではありません。それは、すべての会員が分かち持つサレジオの召命を、より惜しめない心で徹底的に生きる人です。宣教師の召命は、祈りのうちに**願い求め**、兄弟たちの中で暮らしながら目覚め、識別のうちに**確認され**、成長において**同伴を受け**ます。

宣教師の生き方にひかれる人が召し出しを見だし、保ち、育むのは、**祈り**を通してです。日々の祈りは、神の呼びかけに耳を澄ます助けになるのです。聖霊が心に呼び覚まされた問いや夢、葛藤、不安を、祈りの中で神のみ前に置くことによって、人は神と出会います。

宣教の活気づけを促進する次の**取り組み**は、すべてのサレジオ会員と全教育司牧共同体の宣教精神を生き生きと保たせる大切な手段です：毎月11日の宣教師のための祈り；カリエロ11とカリエロLIFEビデオの活用；毎年「サレジオ宣教の日」の開催；夏季の海外宣教体験（初期養成中のサレジオ会員）；若者の宣教グループ；サレジオ宣教ボランティア運動。このような効果的な宣教の活気づけによって、サレジオ会宣教師の召命は生まれます。

聖ヨハネ・パウロ二世は書いています。「愛はすべての人間の根本的な生まれながらの召命です」(使徒的勧告『家庭、愛といのちのきずな』11)。一人ひとりすべての人は、類ない、繰り返すことのできない、愛の召し出しに呼ばれています。宣教師の召命を**識別する**ということは、愛するために、サレジオの召命をより惜しめなく、徹底して生きるために、神がどのように自分を呼んでくださっているかを識別することです。

同伴は、心の深い望みを明らかにする助けとして重要な方法です。識別には、霊的指導者に心を開くこと、時間をかけること、忍耐、堅忍が必要です。霊的指導者は「魂の友」であり、識別の過程で混乱や時には壁にぶつかることもある中で、歩みを助けてくれます。

サレジオ会宣教師として神が呼んでおられると思ったら：**祈り、霊的指導者に同伴してもらい、識別を行ってください！**

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと分かち合いのために

■ 宣教師の召命を識別するために必要なことは何だろうか？

■ 自分の考えでは、宣教師の召命に応えるにはどのような難しさがあるだろうか？



チャドの家庭の人々と 共にある**宣教共同体**



マテュー神父様、チャドのサレジオ会は宣教的な特徴や要素があるのですか？

チャドのカトリック教会はアフリカで最も若い教会の一つです。まだ100歳に満たない教会で、サレジオ会はここへ来て26年ほどになります。まず南のサールに入り、その後、ンジャメナやドバへと広がって行きました。チャドのサレジオ会は宣教的な性格を持っています。喜びを放っています。自己贈与の飾らない無償性を生きながら、人々と分かち合うキリストの喜びです。サレジオ会共同体は、地元の人々の生活と信仰の状況に適応し、すべての人に信仰を伝えています。生活の仕方、耳を傾けること、共に歩むことを通して、人々に寄り添うように努めています。

サレジオ会はチャドの家庭のためにどのような司牧を行っていますか？

チャドの家庭のため、サールのサレジオ会の司牧としては、家庭の同伴、特に若い夫婦の結婚後最初の数年間の歩みへの同伴をしています。別のレベルでは、小教区の家庭委員会を通しての養成があります。それは特に結婚の準備と、結婚して最初の5年間、夫婦を支えることです。私たちは家庭を訪問し、実情を知るようにしています。恵まれない家庭の子どもたちの教育のためにも働き、支援しています。また、生きて行く技能を身につける養成を若者に提供し、アルコールの有害な影響、それが本人や家庭にどのような影響をもたらすかについて教育しています。

壊れてしまった家庭や家庭生活に困難をきたしている人々をどのように支援しているのですか？

今行っている支援は、まず同伴です。うまく行かない結婚に関して、両親や親族との仲介を行っています。時には、冷却期間として一時的に離れて暮らすことを夫婦に提案することもあります。もう一度一緒になる前に、よくふりかえり、心を落ち着かせるためです。結婚が破綻した場合、同伴を行います。特に子どもたちを養うために苦労することの多い女性たちに同伴します。



ジャン＝マテュー・ボラ・タフォバ神父, SDB

カメルーン人サレジオ会員。南チャドのサールで宣教師として働く。1980年7月15日生まれ。2007年に初誓願、2016年に司祭叙階。最初に赴いた宣教地はガボン。共同体の**院長**、聖ヨセフ教会の**主任司祭**を務める。また小教区付属の学校で教鞭を執っている。ドン・ボスコのスタイルで若者と共に働くことを誇りに思っている。



食品の廃棄

国連環境計画「食品廃棄指標報告2021」より

フ
ォ
ー
ラム

- 世界では消費の可能な食品の**17%**が廃棄されている。
- これは、**40トントラック2,300万台**に満載した積み荷に相当(9億3千万トン)。
- **23億7千万人**が適切に食事をとることができていない。
- 廃棄される食品の多くは**家庭から**出ている。家庭は食品の**11%**、スーパー、レストラン、直販店は**7%**を廃棄している。



国民年間1人当たりの食品廃棄の最も多い国々: **1. サウジアラビア**105キロ; **2. オーストラリア**102キロ; **3. メキシコ**94キロ; **4. トルコ**93キロ; **5. フランス**85キロ; **6. カナダ**79キロ; **7. インドネシア**77キロ; **8. 英国**77キロ; **9. ドイツ**75キロ; **10. アルゼンチン**72キロ; **11. 韓国**71キロ; **12. イタリア**67キロ; **13. 中国**64キロ; **14. 日本**64キロ; **15. ブラジル**60キロ; **16. 米国**59キロ; **17. インド**50キロ

6月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

家庭のために

チャドのサレジオ会・サレジオ家族の関わる家庭において、**互いへの尊敬、キリスト者の愛が育まれますように。**

世界中のキリスト者の家庭のために祈ります。キリスト者の家庭が、無条件の愛の現れとなり、その愛を体験し、日々の生活において聖性の道を前進しますように。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アフリカの
ために

